

今までの高校生生活の中で

三年八組

明間淳子

一九八八年一月十六日。私の未知の世界での新しい生活が始まりうとした日。緑がいっぱいのニッポンにいらした時

の感動は今でも忘れられない。

私にしては留学とは中学庄原からの憧れだった。よく海外についてテレビ番組を見て

は、私もあんな国々へ行き、それまでだみん

なに行く所へ行くためになくその国の人だ。

英にくらし、目には見えな部分も見えて
 いし欲張りなことを思っ、こいた。
 し、いし留学にたんと大それた目
 は全く遠い世界にあり無関係なもの
 らめていた。それが英語料の先生から
 りな留学の制度についてのアリ
 私の留学に対する関心が一挙に高
 生方や両親に相談したり、本屋で留
 ての本を読みあさって、AFSとい
 学の機関の試験を受け、英

語の成績に対するコニアレツクスもある。Eは
 何も英語ばかりを勉強をしに行くんではいい
 んだ。異文化体験をしに行くんEし自分を励
 ましてAFSの試験にトライしE。実際私は
 N. Z. に留学すべきなことになっEけれど、二次
 試験の時の二泊三日の面接を含めたオリエン
 テーション³に参加できなEけれども満足した。
 そこでは十人位のグループに分かれ、自分自
 身、留学の動機や目的などについて自熱した
 ティスカ³ニか行われた。私が共感しE

事は、ある人が「国境を越え人々も理解し、
 誤解をなくすこと」で、戦争をなくし世界平和
 にならねばいい。外国人は現代の日本を
 よく把握してなく、中国などと同様に
 から事実を伝えたいと言ったことだ。それ
 を聞いて、自分の留学に対する甘さを感じた
 し、又それによって自分の考えが確かなら
 になつた。

さて、この辺でN、Z、乙の私の生活につ
 いて書いしてみようと思う。留学という「自由

しか、楽しいし、いろいろな火しジを浮かへが
 ち。事実、私は楽しいことばかり、さんあ、
 か、人には言えないような、つらいこと、あ、
 だ。しかし、今思えば、つらいこと、むさ、え、む、
 い経験の一つ一つに感じられる。

私は農家の子で、家に一年間お世話になつた。
 普通、N、Zの農家といえ、羊をたくさん飼つて

いろいろか、この家庭は、羊、おちりん、その他に
 牛、やぎ、あひな、馬、猫、犬、を飼っています。更に何百匹

という豚の群れ、本当に自然の中に生きてい

るという感じ。この脈が私を困
 らせてくれた。
 初めは興味本位で遠くから見て
 いたけれど、
 そのうち家族の一員としてみな
 されなから当
 然手伝いを強いられた。まずは脈
 にんさをあ
 げなると。あのものですこい悪臭
 で私は、脈系
 屋さんも近寄りたくなかった。本
 当の子供と
 して扱かってくれるのは、私にと
 っしてとても
 嬉しいことだけれど、いやなもの
 のだ。しかし同じ留学生でも町に
 住んでいな
 る子は二人は目には合わないと
 思おうと、

とうして私に何が……、と頭にくる。家族が
 することは私もする、と考えていたが、今ま
 ち私が十七年間くらしてきた環境と全く違
 のたから、そんなにすぐ新しい環境に順応
 するはずがない。私の理想の留学生像と私自
 身のギャップに直面した最初の問題はこれだ
 った。
 もう一つすさまじい牧場での体験は、家で
 飼っているかかを殺してその羽を抜くの
 手伝いされたことだ。これがまた、死んだか

の頭が取れていければいいのだから、半分取れか
 かっていいる状態で、これをお湯にさして通し
 て素手で羽をたいて抜いていくのだから。私は
 生きた心地はしないし、平気な顔をしてやっ
 ている家族を偏見の眼で見えしめた。でも
 後で考えるし、これは日頃ごく普通に行われ
 ていることがたまに私の目の前で行われた
 だけだった。私たちが動物を殺すという残酷
 な部分はやとして、お店では何も考えずに
 肉を求めるときかひきる。家畜を自分達の為

に殺してしまおう。三、二を見て、人間が自然の
中で生きていくと、ほどうしようもない面も
再認識させられた。

次に学校生活について、妹が通っていろし

いうこと、同じ女子校に行くことになった。

N. Z. まて来て、女子校なんて、と、思、た、け、れ、し、

私、か、持、て、い、た、ハ、メ、シ、ヨ、リ、け、こ、う、よ、か、

E.

英語で授業を理解するのが大変だ、Eのは

言うまでもない。でも質問する、先生や友達

か親切に教えてくれたいのよ。この点はどうにかなう。

それより大変だ、たのは親友作りだ。

その学校では、私は留学生だから、という特

別扱いほされなかつた。私は留学生なんだから

ら当然みんなか近寄り、てきてくれるだろう。

と、いう期待は、真事に破れた。みんなからちや

やされるより早く自立してきてよか、たのた

か、。でも、淋しか、た。休み時間やうに、

夕べに楽しく話しをすな友達か、なかつた。

と	思	う。	こ	も	い	ま	だ	英	語	が	分	か	ら	な	い	こ	と	も																									
か	同	し	に	い	る	人	に	声	を	か	け	よ	う	た	。	他	の	ケ	ル	一	ツ	の	仲	間	に	入	り	う	と	。	ク	ラ	又										
ら	私	は	思	い	き	つ	て	妹	の	ケ	ル	一	ツ	か	ら	後	に	出	し	に	合	っ	た	。	私	の	友	達	が	缺	し	か	っ	た	。	た	か						
の	友	達	と	も	あ	っ	た	け	れ	と	。	妹	の	こ	は	な	く	。	私	の	友	達	と	も	あ	っ	た	。	た	け	れ	と	。	妹	の	こ	は	な	く	。	私		
を	盛	り	あげ	続	か	せ	る	か	か	問	題	に	な	っ	た	。	友	達	が	。	あ	っ	て	何	か	ら	話	を	切	り	出	す	か	。	ま	だ	た	。	私				
と	キ	ら	な	ま	で	沈	み	か	ら	な	り	て	寂	し	い	こ	う	な	願	を	し	て	し	。	あ	っ	て	何	か	ら	話	を	切	り	出	す	か	。	ま	だ	た	。	私

まう。「寂しそうしし人に言わぬと、そんな
 ことないよ、と強かりを言うものの、私は
 孤独だった。しん底まで突き落とされ、ここ
 からお前ははり出せぬかと試されてくる
 みたいたった。今までこんな孤独感を味わ
 ったことはなく、こんなに一人ぼっちという
 のがフライもものごとく思わぬか。た。た。
 そのうち親友と時々友人もたまに週末には
 その子の友達の家に行きまわりに行ったり、パ
 ティーに行き、たまたまにはほかのことや、

日本の高校生活は味わえないようなことだ
 し。私曰友達といる時かすこく楽しか。た
 だから友達とは、異国にいら私を心から支え
 てくれ、私を生きさせさせてくれぬものだ。
 F。
 木ストフアミリ。一見うまくだい。といぬ
 ようには思われ。私には悔いの職をこし
 加あ。た。私の木ストフアミリの構成は、
 木アさん、お母さん、一フ岸上の大學生のお
 兄さん、それと一フFの妹。みんなほしておい

見えぬの曰った。
 乙気が付かなかった。自分の嫌なところかよく
 一ルヒきすよく自己嫌悪に陥った。今ま
 し分かっているのに、そんな自分をもゴートロ
 また、自分ほ二人ほすじやないのに。
 もなくするなとした。私にも腹立たしかった。
 になれたかもしれない。たのに、そんな勇氣
 本当の家族の一員
 出している。しよにけんかヒキたら、
 いかできないの。Eろうし。私も自分をさら

他にも私達はAFSのホウニテ、了の方及

に大変な世話になつた。私達の午ヤ、7月1日は

よく干ヤ、27日やミ、1テ、2月かあり、ここを

す、かり国と国との隔たりが取り除かれたと

思う。ありとあらゆる国から、AFS生

か来ていたけれど、特に同レ午ヤ、7月1日に

に七人の仲間ほ、共に笑ひ、共に泣き、涙し

して忘れぬことのほい仲間だ。まず、夕の「只

へレ、カレ、いうのは、ニ、ク、エ、ム、ヒ、夕、イ、語、ヒ

午、レ、シリ、う、意味、に、そ、う、に、レ、7、の、夕、前、に、居、る

反対に彼女曰わ
「わーかある。
いつ日更拍子も

ないことを言っ
てみんなを笑わ
せ、笑顔も絶

やさしい。今二
トネ三三のData
彼女は今二ト

ネ三三の民俗舞
踊が上手、が月
の家に行くとE

時、夜二人で悩
み話をしあ、E
リレ^{作っ!}又々又

of Sabine
ハレIをやって
いるEはあ、て、
すら

、とし、ていつ
かわいい。又々
又人かお酒を飲

むしよくやるし
いう、あの踊り
大好き。アハ

をよくやるとこれいかに
おぼろの踊りが

リカ人のScott
将来は俳優かコ
メディーアニな

リタリという彼
ほいつもジコ
17を言っ、て人

を笑わせ、またいろいろは甚を見せてくれた

ちなみに彼はN.スにいなから最後までアタリ

カのアワセニトび語していた。今り人のカウ

ニと Carlos 今まであまり興味の中か、南米

に興味をもつぎ、かけを作ってくれた。南

米の子は根っから明るく、音楽があるしすぐ

踊り出しとしまうところか楽しい。カナタで

もカベツク出身の Emmanuel 彼は、ほろろりい

って賢い。トラニロニカぶみんなか奴に惚来

された時、どうして奴に刺された部分もかく

と、かゆくなるか説明してくれ。E時は、みんな

で尊敬しあやうた。け。残る一人は、三重出

身のくみ、英語では微妙なところかうまく言

えなかつた時、唯一頼りにな。た後で、で

私より英語がうま、か。Eから、ライバル意

識もあ、Eりして。

本当に、二のA E S 体験で、人と人との小

れ合いの盃かさか身にしみた。Eれかこうか

いつも私の周りにいて、私は一人で生きてい

るの、でほほいと実感した。それと、世界に対

する目が変わった。近くて遠かった。了了の
 国々がとても身近なものに感じ、行ってみた
 い所だ。そして、その国の人々は人間的に
 力がある。
 私はいつも自分を発展させ、いろいろな面
 で少しづつも優れていたいと思ふ。でも、これ
 をあの留学から得ようと思つては期待しすぎ
 かもしれない。だから一年、二年、三年。そ
 れは私の心に引かかるといふのは、これだ
 け私の国に、
 人に影響を与えなごじかぶき、

そして
 ヌッ
 ぱー
 シを
 伝え
 られ
 たか
 だ。
 ？
 ！
 が
 残る。

二
 水
 から
 生
 き
 て
 い
 く
 中
 で
 い
 ろ
 い
 ろ
 な
 こ
 と
 が
 起
 こ
 る
 と
 思
 う
 か、
 行
 き
 詰
 ま
 ？
 在
 時、
 困
 難
 に
 直
 面
 し
 た
 時
 な
 と、
 あ
 の
 留
 学
 体
 験
 か
 け
 し
 て
 も
 生
 き
 て
 く
 れ
 れ
 ば
 い
 い
 な、
 と
 思
 う
 の
 で
 あ
 る。